

かざやしんぶん

15号



尾野一矢さんについて

一矢さんは1973年3月26日座間市生まれで、51歳です。彼には重度の知的障害と自閉症があります。両親と姉の4人家族で一緒に暮らしていましたが、共働きの両親が世話を続けるのが難しくなり、中学1年生のときに障害児向けの施設に入所しました、そして成人してからは23歳のときに相模原市緑区の県立障害者施設「津久井やまゆり園」に入所しましたが、2016年7月26日、障害者19人が刺殺、職員2人を含む計26人が重軽傷を負わされる「相模原障害者施設殺傷事件」が起きました。犯人はこの施設の元職員で「障害者はいなくなればいい」と主張するなど、障害のある人を差別・排除する考えをあらわにしました。一矢さんも首や腹などに重傷を負いながらも何とか一命は取り留め、徐々に回復に向かいました。両親は重度の障害がある人が暮らす場所は施設以外にはなく、このまま施設での暮らしがずっと続くものと思っていました。しかし、重度の知的障害のある人が支援を受けながら地域のアパートで一人暮らしをする取り組みがある事を、映画「道草」(宍戸大裕監督)やNPO法人「自立生活企画」(東京都西東京市)との出会いにより知りました。集団生活を送る施設ではどうしても一矢さんのペースで生活することは難しく、もっと自由な生活をさせてあげたいという思いが両親の背中を押しました。そこで2018年8月から地域生活を見据えて、自立生活企画の介護者が週1回施設に出向き、家族と一緒に昼食を共にしながら一矢さんとの信頼関係を築いて行きました。そして2年後の2020年8月、故郷の座間市でようやくアパート生活を始めることができました。



施設での生活が計35年ほどに及ぶ一矢さんにとっては戸惑うことばかりの日々かもしれませぬ。それは、私たち介護者も同じです。ともに悩み、そして楽しみながら手探りの日々を送っています。そんな一矢さんですが、いたって普通のおじさんです(笑)。ポテトサラダ、ハンバーグ、納豆、たくあん、板チョコ、缶コーヒーや「一本橋」という手遊びが大好きです。もし一矢さんが「一本橋」と言って手を差し出してきたら、それは「友だちになりたい」というあなたへの親愛の証です。ぜひ相手になってください(介護者が遊び方をお伝えします)。一矢さんは平日の日中は作業所で活動していますが、わが家である「かずやんち」(一矢さんはこう表現します)でのまったりとした時間が何よりも大好きです。一矢さんはその時の気分で、部屋で大声を出してしまうこともあります。この生活を大変気に入っています。私たちはそんな一矢さんをこれからも支え、共に生き、一矢さんの友だちの輪を広げたいと思っています。何かとご迷惑をお掛けしてしまうかもしれませんが、どうか温かく見守っていただければありがたいです。

慶応義塾大学藤沢キャンパス

「共生社会のデザイン」講義 2026年1月8日



脊髄性筋萎縮症（SMA）で車いすユーザーの佐野夢果さん。昨年の春、慶應大学藤沢キャンパスに入学し、重度訪問介護制度で一人暮らしをされています。ヤマユリ園の追悼、献花の場で出会い、現在所属されている研究会の内山映子先生

（環境情報学部教授）と夢果さんからお招き頂き、一矢さんと介護者（大坪）で登壇させて頂きました。

「この講座では、様々な生きづらさを抱える当事者や当事者を支える方たちをゲスト



として教室にお招きし、どのような困難に直面しているか直接学生にお話いただき、質疑や対話の機会を提供しています」というとてもユニークな授業で13回目のゲストスピーカー(全14回でゲストとしては最終回)。一矢さんとの出会いや、一矢さんや夢果さん



の生活を支えている重度訪問介護に至る障害者運動の歴史、また一矢さんの2階の住人との摩擦とその後の経過。そして現在の夢果さんの暮らしの中で、課題となっている事などについて同じ学友としてどう考えるかなど、障害者権利条約や差別解消法、建設的対話に



よる合理的配慮の実践例などを身近な問題として具体的に考えてもらい、こうした対話を通じて実現しようとしているのは、存在自体に条件付けをされない、誰もが負い目を感じることはない社会を目指していくことではないかとお話しさせていただきました。

介護保障要求要求運動の
リーダー新田勲さん(故人)と大坪(介護者)

事件について知らない世代も出て来ているかと思い、知ってる方は挙手してくださいと投げかけた所、ほとんどの学生さん達が手を挙げて、一矢さんの動画も以前から見てくれていたとの発言もあり、熱心に聞き入る学生さん達の目が真剣で突き刺さるようで、今の若い世代の皆さんの関心の高さがとても強く感じられました。一矢さんもそんな学生さん達の真剣さを感じてか、90分の授業時間中、時折笑顔を見せながらもドンと構えて自分のポジションをしっかりと守ってくれていました。

内山先生のおおらかな器の大きさ、夢果さんの瑞々しい感受性があったのはじめて実現できた、とても良い授業でした。ありがとうございました。



佐野夢果さん(真ん中)、内山映子先生(後)学友の鈴木我信さん(後ろ右)神奈川新聞成田記者(右下)

障害学・国際法学者の長瀬修さん

が会いに来てくれました。



立命館大学生存学研究所、障害者権利条約の専門家として条約策定過程や解釈と実施において中心的な役割を果たされている長瀬修さん。「かずやんち」に遊びにいらしてくれました。

2023.10にピープルファースト横浜の主催で知的障害当事者初の国連権利委員のロバートマーティンさんがいらした時



に初めてお会いして以来、ようやく
直接お話をさせて頂ける時間が出
来、募る話もゆっくりとさせていた
だきました。

今年は事件から 10 年の節目の年、
良い縁に恵まれて一矢さんも

介護者(大坪)もとても心強い素敵な時間になりました。

長瀬さん今後ともよろしくお願いします！



ロバートマーティンさん、一矢さん



展覧会 工藤春香+カプカプ川和

「ここを北極星とする」

一矢さんとの親交が深いアーティストの工藤春香さん。

今回は横浜都筑区のカプカプ川和さんとの協業による展覧会をするという事で、立命館大学生存学研究所の長瀬修さんと一緒



に見に行きました。

横浜市営地下鉄川和駅近くの



カプカプ川和の喫茶店には、工藤さんやカプカプメンバーの皆さんの作品が部屋全体に展示されていて、メンバーと作品が一体となった、

とても開放的な空間が出来上がっていて、一矢さんも店内を自由に動き周り、声をだし、溶け込んでまるで自身が作品の一部になっているようでした。





工藤さんや長瀬さん、
以前、工藤さんとコラボした事もある
マリンバ奏者の野木青依さんとも一本
橋コチョコチョコ！

とても楽しい時間を過ごさせていた
できました。



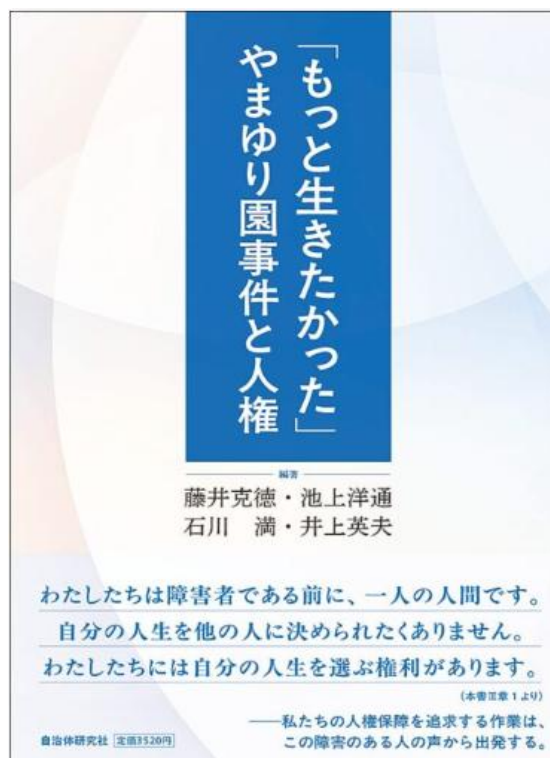
これからのお二人の活躍がますます
楽しみです。



「もっと生きたかった」やまゆり園事件と人権

事件当時の混乱や一矢さんの地域移行について

尾野剛志(お父さん)と大坪(介護者)も書かせて頂いています。



事件から9年。優生保護法最高裁大法廷判決を踏まえて、人権保障の視点から事件を捉え直す。

「わたしたちは障害者である前に、一人の人間です。自分の人生を他の人に決められたくありません。わたしたちには自分の人生を選ぶ権利があります。」(本書3章1より)——私たちの人権保障を追求する作業は、この障害のある人の声から出発する。

事件から9年。優生保護法最高裁大法廷判決を踏まえて、人権保障の視点から事件を捉え直す。27名の筆者が、さまざまな立場から事件の根底にある日本社会のマグマのような優生思想、対抗すべき人権意識の弱さ、そして社会保障・社会福祉等政策・制度の貧困を指摘する。とくに、国の人権保障に対する恐るべき無責任体制、自助、共助、公助論、社会保障・社会福祉の民営化・営利化政策があることを厳しく問う。 出版社: 自治体研究社

書籍名	「もっと生きたかった」やまゆり園事件と人権
著者名等	藤井克徳, 池上洋通, 石川満, 井上英夫(編著)
価格	¥3,520 (税込)
発行年月日:	2025年9月25日

じぶんぐらしの本

以前、「楽しい生活応援団」ということで、一矢さんの暮らしなど地域で一人暮らしをする知的障害の方の生活を紹介してくれた本を作ってくれま



したが、その続編として3名の方(かんちゃん、ひーやん、ゆうくん)の暮らしを紹介した「じぶんぐらし

の本」が出版されました。クラウドファンディングで皆さんの協力をお願いし、ようやく形

になりました。ご協力ありがとうございました。



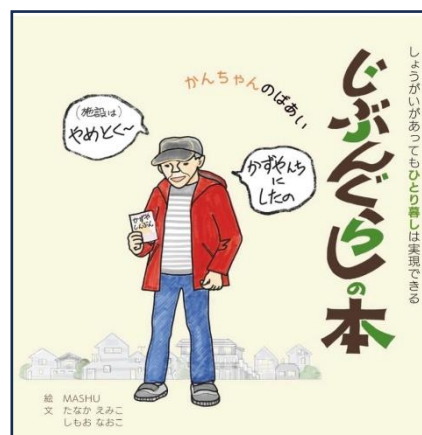
ひーやんとカプカプ川和にて

『かんちゃんのはあい』じぶんぐらし絵本シリーズ③
作者:しもおなおこ, たなかえみこ イラスト:MASHU
本文は別掲載で「読む」より「見る」絵本。
文字に頼らず伝わる、「かんちゃんの日」。
くっきりしっかりしたイラストで、かんちゃんの日を描きました。
文字は全てQRコードに読み聞かせ文として入れました。
読まなくちゃ!
という余計な強迫観なく、読んでもらう、見てわかる絵本です。

書籍:

ハードカバー版¥2,970 (税込)

ペーパーバック版¥1,320 (税込)



「私たちのことを私たち抜きに決めないで(Nothing About us without us)」を合言葉に世界中の障害のある人たちが参加し作成された「障害者権利条約」。批准国である日本に対し国連の権利委員会による初めての審査がスイスのジュネーブで2022年8月22日から2日間行われました。権利委員会は「(やまゆり園)事件を経て、このような施設で暮らす人達が沢山いる事について考え直した事はあるんでしょうか」と指摘。「障害のない人と平等に施設から地域社会で自立した生活へ移行することを目指し期限付きの数値目標、人材、技術、資金を伴う法的枠組みや国家戦略、その実施のための都道府県の義務付けを開始すること」を求めました。にもかかわらず国による地域移行の現状は年々減速しており、いまでもおよそ約13万人が施設で暮らしています。次回の審査は2028年、早急にヘルパーの育成など地域の体制づくりを進め「脱施設化」に向けた動きを実行していく事が求められています。



発行 かずやさんとその仲間たち

〒252-0005

神奈川県座間市さがみ野3丁目2-19-101

メール kazuya.ono811@gmail.com

Facebook “尾野一矢日記”

<https://www.facebook.com/onokazuyanikki>

ホームページ

“よってけ一矢んち” <http://ono-kazuya.com/>

発行日 2026年2月



“尾野一矢日記”



“よってけ一矢んち”